

若手研究者 海外派遣 報告

所属：(公財)がん研究会 がん化学療法センター 龔 博(キョウ ハク, Gong Bo)

参画事業：革新的がん医療実用化研究事業

派遣先：XVIIIth KI Cancer-StratCan retreat

XVIIIth KI Cancer-StratCan retreat は 2019 年 9 月 16 日から 17 日にスウェーデン・Djurönäset で行われ、合計 150~200 人ほど参加されました。本 retreat では、カロリンスカ研究所を中心に、アメリカ、日本、イギリス、スペインにて代表的な研究をされている著名な研究者を招き、基礎（細胞シグナル・がん免疫など）から臨床まで幅広い講演が行われました。また、学会初日の夜にポスターセッションも行われ、約 65 個にも上る演題について盛んに議論されておりました。特に印象に残った発表では、基礎研究では乳がんの悪性化機序のひとつに PAK4 というキナーゼ遺伝子の発現上昇があり、一般的に知られるがん遺伝子の異常な活性化(例: KRAS/G12V など)によって誘導される増殖抑制(細胞老化)を解除し、腫瘍の増大・悪性化に寄与するというものでした。現在 PAK4 阻害薬に関する臨床試験が乳がんなどで進行しており、既成のがん細胞が依存している増殖・生存経路のみならず、この研究のようながんが成立していく過程を解明することにより治療薬に繋げる試みも盛んに行われていると感じました。また、臨床研究では、AI(人工知能)を駆使した病理診断で、299×299 pixels 解像度で 9 割以上の検体でがん部と非がん部の見分けをつくようになったという発表でした。近年の日本癌学会においても AI を用いた臨床研究に関する発表が多くあり、今後は研究技術を合わせて、更なる高い診断精度に期待したいと思いました。

若手研究者やがん研究者へのメッセージ

海外研究者に自身の研究に興味を持ってもらえたり、研究をよりよくするための提案をいただいたり、カロリンスカ研究所等で開発されている技術に関する共同研究の可能性について議論したり、自身の研究を前進させるための大変有意義な時間であったとともに、自分にも自信を持てるようになったと感じております。また、本 retreat は一般的な学会とは異なり、カロリンスカ研究所の研究者・研究生が中心となっており、私のようなスウェーデン以外からの参加者にも食事会等で親切にしてくださり、非常に短い間でしたがカロリンスカ研究所に留学している錯覚に落ち、海外留学にチャレンジして研究者としてのキャリアを重ねていくことに対する敷居がかなり下がりました。今回の派遣で大変貴重な経験を授かることができましたので、ぜひ機会があればまだ海外に行かれたことのない若手研究者やがん研究者に参加していただきたいと思いました。



図 1. 学会会場風景



図 2. Stockholm 大聖堂